



2015年3月期 第2四半期

決算説明会資料

2014年11月11日(火)

ミツミ電機株式会社



2015年3月期 第2四半期 決算概要 P 2

2015年3月期 下半期の業績予想と配当 P 11

今後の経営戦略 P 17

【免責事項】

この資料は投資家の参考に資するため、ミツミ電機株式会社(以下、当社)の現状を理解いただくことを目的として作成したものです。

当資料に記載された内容は、2014年11月11日現在において、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化などの事由により、予告なしに変更される可能性があります。

投資に関するご決定は、当資料に全面的に依拠することはお控えいただき、皆様ご自身のご判断でなされるようお願い申し上げます。



2015年3月期 第2四半期 決算概要

取締役 常務執行役員 本社管理部門担当

齋藤 求

1. 売上高 : 情報通信端末関連の海外顧客向けおよび車載関連などが増加したものの、アミューズメント関連および情報通信端末関連の国内顧客向けが大きく減少
2. 営業利益 : 売上高減少を高付加価値製品の構成比率の向上と固定費の削減で挽回
3. 経常利益 : 為替差益9.5億円(前年同期比1.7億円増加)を計上
4. 当期純利益 : 中国製造子会社(天津三美電機有限公司)の遊休工場売却に伴う特別利益7.6億円を計上

	2014年3月期 第2四半期		2015年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	76,095	100.0	67,858	100.0	△8,236	△10.8
営業利益	△1,682	△2.2	△2,414	△3.6	△732	-
経常利益	△697	△0.9	△1,606	△2.4	△908	-
当期純利益	△1,251	△1.6	△1,859	△2.7	△607	-
為替レート (対米ドル)	98円03銭		102円52銭		4円49銭の円安	

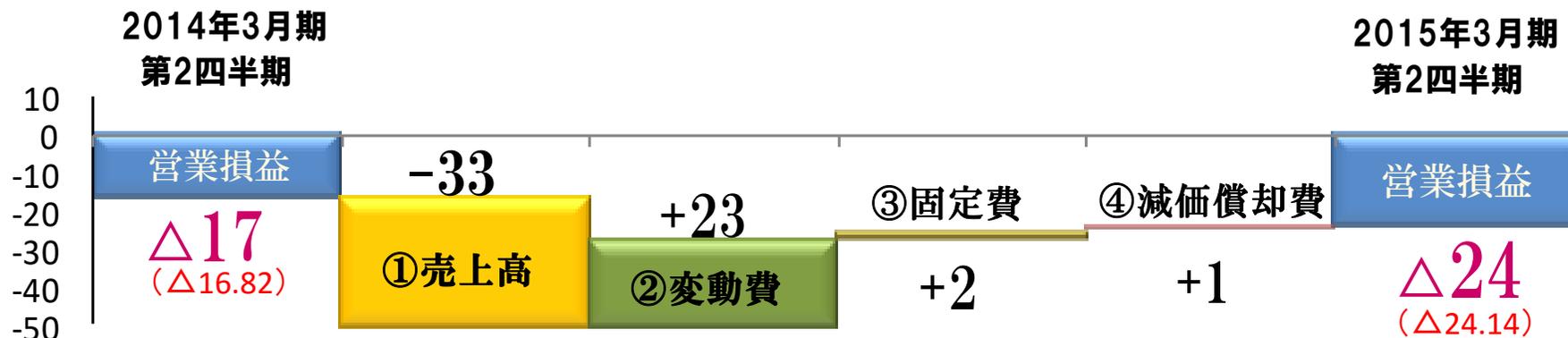
1. アジア : 情報通信端末向けを中心に10億円の増加
2. 欧州・北米 : 車載関連製品を中心に微増
3. 国内 : アミューズメントおよび情報通信端末関連の国内顧客向けを中心に96億円の減少

	2014年3月期 第2四半期		2015年3月期 第2四半期		前年同期比
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
アジア	37,874	49.8	38,921	57.3	+1,047
欧州	1,743	2.3	1,478	2.2	△ 265
北米	2,016	2.6	2,581	3.8	+565
国内	34,462	45.3	24,878	36.7	△ 9,584
合計	76,095	100.0	67,858	100.0	△ 8,237

■ 前年同期比 -7億円 (前期-17億円、今期-24億円)

- | | |
|-----------------------------------|-------|
| ① 売上高が82億円減少したことによる付加価値の減少 | -33億円 |
| ② 高付加価値製品の構成比の上昇と変動費改善による限界利益率の向上 | +23億円 |
| ③ コスト削減効果と円安による海外事業運営費の増加が相殺 | +2億円 |
| ④ 投資タイミングの一部見直し | +1億円 |

(単位:億円)

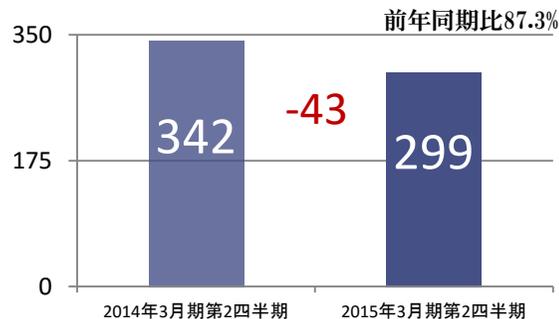


※ 億単位未満を四捨五入

1. 売上高 : 情報通信端末向け主力製品の受注遅れおよび立ち上げ遅れにより、41.4億円の減少
2. 営業利益 : 売上高減少による付加価値減を固定費の圧縮により補い、9.1億円の減少
3. 経常利益 : 為替差益9.5億円を計上
4. 当期純利益 : 天津三美電機の工場売却益7.6億円を計上、青島三美電機の移転補償金約13億円の受領遅れ

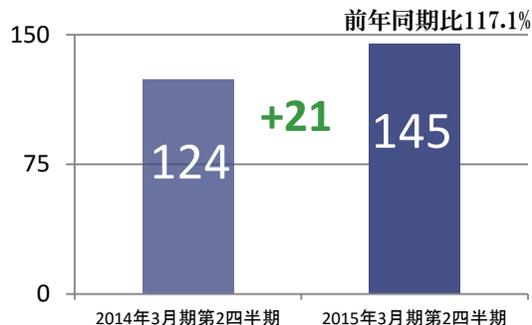
	2015年3月期 第2四半期予測(5月12日発表)		2015年3月期 第2四半期 実績		予測比
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
売上高	72,000	100.0	67,858	100.0	△4,141
営業利益	△1,500	△2.1	△2,414	△3.6	△914
経常利益	△1,500	△2.1	△1,606	△2.4	△106
当期純利益	△1,000	△1.4	△1,859	△2.7	△859
為替レート (対米ドル)	予測:103円00銭		102円52銭		—

機構部品



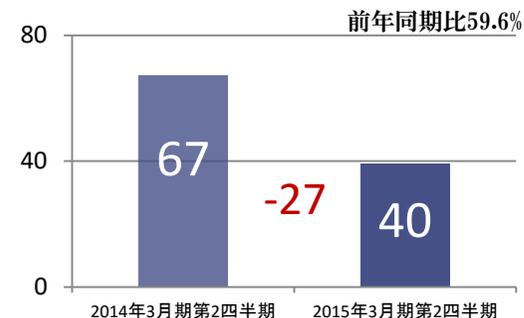
アクチュエータを含む汎用製品は増加、アミューズメント関連製品は減少

半導体デバイス



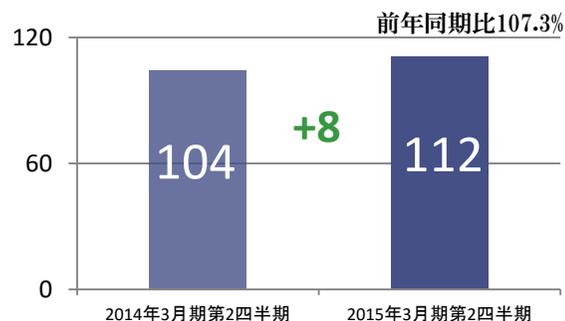
高付加価値のパッケージ製品は増加、モジュール製品は減少

光デバイス



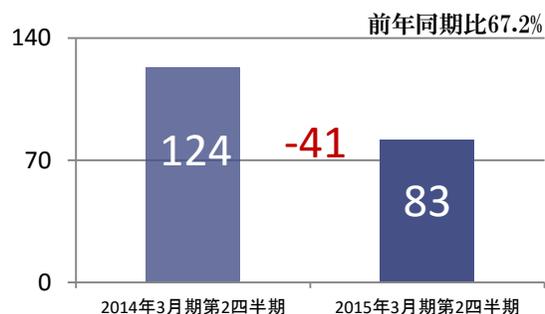
標準カメラモジュールは増加、アミューズメント関連と携帯端末用の特定顧客向けが減少

高周波部品



車載関連製品が増加

電源部品



組込型製品は、LED照明用が増加、アダプタ製品は、アミューズメントおよび携帯端末用の日系顧客向けが減少

(単位:億円)

注: 億単位未満を四捨五入

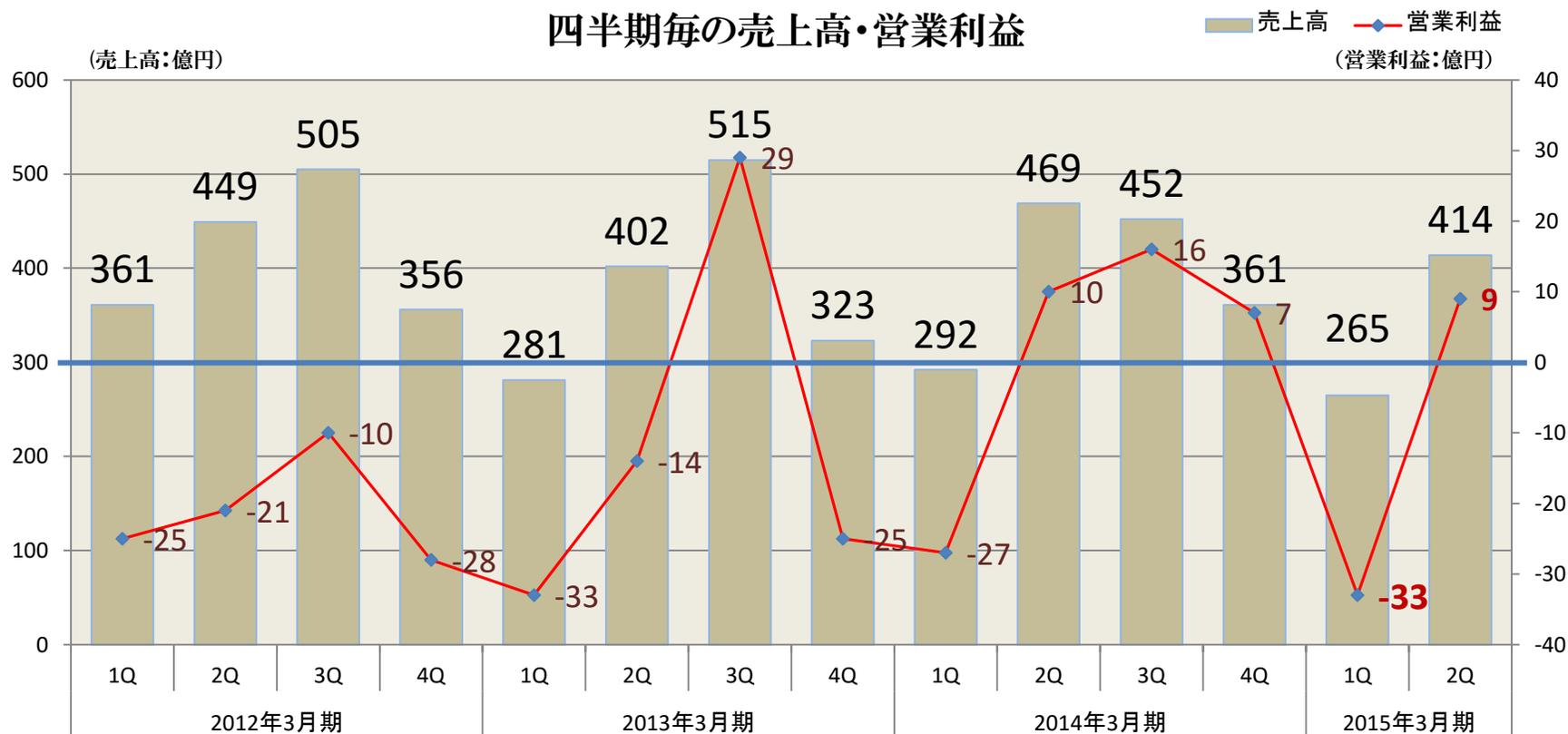
1. 資産合計 : 9月の売上高と受注の増加により、受取手形および売掛金・棚卸資産が増加
2. 負債合計 : 受注増により、支払手形および買掛金が増加
3. 自己資本比率 : 自己資本比率が64%に低下したが、当事業年度末には回復する見通し

		2014年3月期		2015年3月期 第2四半期		増 減
		金額 (百万円)	構成比	金額 (百万円)	構成比	
資 産	現金及び預金	46,317	32.4%	42,483	25.8%	△ 3,834
	受取手形及び売掛金	36,692	25.7%	46,260	28.0%	+9,568
	棚卸資産	27,627	19.3%	38,929	23.6%	+11,302
	その他	1,341	0.9%	3,020	1.8%	+1,679
	流動資産	111,977	78.3%	130,692	79.2%	+18,715
	固定資産	31,003	21.7%	34,244	20.8%	+3,241
資産合計		142,981	100.0%	164,937	100.0%	+21,956
負 債	支払手形及び買掛金	18,309	12.8%	36,062	21.9%	+17,753
	その他	15,647	10.9%	19,558	11.9%	+3,911
	流動負債	33,956	23.7%	55,620	33.7%	+21,664
	固定負債	6,033	4.2%	3,625	2.2%	△ 2,408
負債合計		39,989	28.0%	59,246	35.9%	+19,257
純 資 産	株 主 資 本	116,783	81.7%	116,916	70.9%	+133
	その他の包括利益累計額	△ 13,790	△9.6%	△ 11,225	△6.8%	+2,565
	純資産合計	102,992	72.0%	105,691	64.1%	+2,699
負債・純資産合計		142,981	100.0%	164,937	100.0%	+21,956
自己資本比率		72.0%		64.1%		△7.9

1. 営業活動によるキャッシュ・フロー : 第2四半期の売上高減少により前年同期比で改善
2. 投資活動によるキャッシュ・フロー : 定期預金預入(約63億円)以外、前年同期から変化少ない
3. 現金及び現金同等物の期末残高 : 定期預金預入分を含め、前年同期比約86億円増加

	2014年3月期 第2四半期	2015年3月期 第2四半期	増 減
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)
税金等調整前当期純損失	△ 1,128	△ 1,539	△ 411
減価償却費	3,100	3,034	△ 66
売上債権	△ 15,112	△ 8,427	+6,685
たな卸資産	△ 9,694	△ 10,794	△ 1,100
仕入債務	14,336	16,610	+2,274
その他	1,152	△ 290	△ 1,442
営業活動によるキャッシュフロー	△ 7,346	△ 1,406	+5,940
有形固定資産取得	△ 5,649	△ 4,810	+839
その他	291	△ 5,467	△ 5,758
投資活動によるキャッシュフロー	△ 5,358	△ 10,277	△ 4,919
フリーキャッシュフロー	△ 12,704	△ 11,683	+1,021
財務活動によるキャッシュフロー	△ 4	△ 437	△ 433
現金及び現金同等物の増減額	△ 12,231	△ 9,960	+2,271
現金及び現金同等物の期末残高	33,133	35,452	+2,319

1. 売上高 : 第2四半期の計画が未達成で、累計でもアミューズメント関連製品などの減少を情報通信端末・車載関連製品の売上高増加で補えなかった
2. 営業利益 : 固定費・変動費の削減により損益分岐点の改善も進んだが、売上高未達成の影響を相殺するまでには至らなかった





2015年3月期 下半期の業績予想と配当

■ 下半期に向けて、受注残高が前年同期比で大きく増加している

1. 半導体デバイス：パッケージ製品は微増、モジュール製品が減少
2. 光デバイス：アミューズメント・スマートフォン用の特定顧客向けが減少
3. 機構部品：アクチュエータを中心とする情報通信端末向けが増加
4. 高周波部品：車載関連製品が増加
5. 電源部品：情報通信端末用国内向けACアダプタが回復

	2014年3月期 第2四半期末	2015年3月期 第2四半期末	前年同期比	
	金額(百万円)	金額(百万円)	金額(百万円)	(%)
半導体デバイス	3,287	2,931	△ 356	89.2
光デバイス	1,839	1,126	△ 713	61.2
機構部品	5,984	9,039	+ 3,055	151.0
高周波部品	2,946	3,171	+ 225	107.7
電源部品	2,499	3,237	+ 738	129.5
合 計	16,557	19,506	+ 2,949	117.8

■通期業績見通しは維持する

1. 売上高 : 上半期計画未達分は下半期で上積みする計画
2. 各段階利益 : 売上高上積みにより各段階利益とも期初計画を維持

	2014年3月期通期 実績		2015年3月期 通期 (5月12日発表)		増 減	
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	%
売上高	157,360	100.0	165,000	100.0	+7,640	+4.9
営業利益	629	0.4	3,000	1.8	+2,371	+376.3
経常利益	2,632	1.7	2,000	1.2	△632	△24.0
当期純利益	3,228	2.1	1,500	0.9	△1,728	△53.5
為替レート (対米ドル)	99円75銭		103円前提		3円25銭の円安	

1. 売上高 : スマートフォン向けアクチュエータおよびアミューズメント関連が増加
2. 営業利益 : 売上高増加により改善
3. 経常利益 : 為替差損益の影響

	2015年3月期 上半期		2015年3月期 下半期 計画		半期比
	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)	売上高比(%)	金額(百万円)
売上高	67,858	100	97,142	100	+29,284
営業利益	△2,414	△3.6	5,414	5.6	+7,828
経常利益	△1,606	△2.4	3,606	3.7	+5,212
当期純利益	△1,859	△2.7	3,359	3.5	+5,218
為替レート (対米ドル)	実績 : 102円52銭		予測 : 103円(通期) 103円48銭(下半期)		-

1. 設備投資 : 受注の遅延に応じて投資タイミングを見直したが、投資総額は期初計画を維持
2. 減価償却費 : 上半期は投資タイミングの見直しにより減少、下半期は期初計画を維持
3. 研究開発費 : スマートフォン向け次世代製品およびMEMS関連製品向けを中心に継続維持

	2014年3月期		2015年3月期 (5月15日開示)		2015年3月期 (11月11日開示)		5月15日開示時点 と11月11日開示時 との差異
	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期計画	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期実績	売上高比(%)	金額(百万円) 下段上半期
設備投資	10,548 (5,773)	6.7	11,000 (8,000)	6.7	11,000 (4,905)	6.7	±0 (-3,095)
減価償却費	6,526 (3,100)	4.1	8,700 (3,600)	5.3	8,200 (3,034)	5.0	-500 (-566)
研究開発費	10,626 (5,128)	6.8	11,000 (5,500)	6.7	11,000 (5,744)	6.7	±0 (+244)

※ 設備投資実績はキャッシュフローベース

2015年3月期は、当初の予定どおり1株当たり7円(配当性向40%)配当を計画しております

1株当たりの配当金と配当性向





今後の経営戦略

代表取締役社長

森部 茂

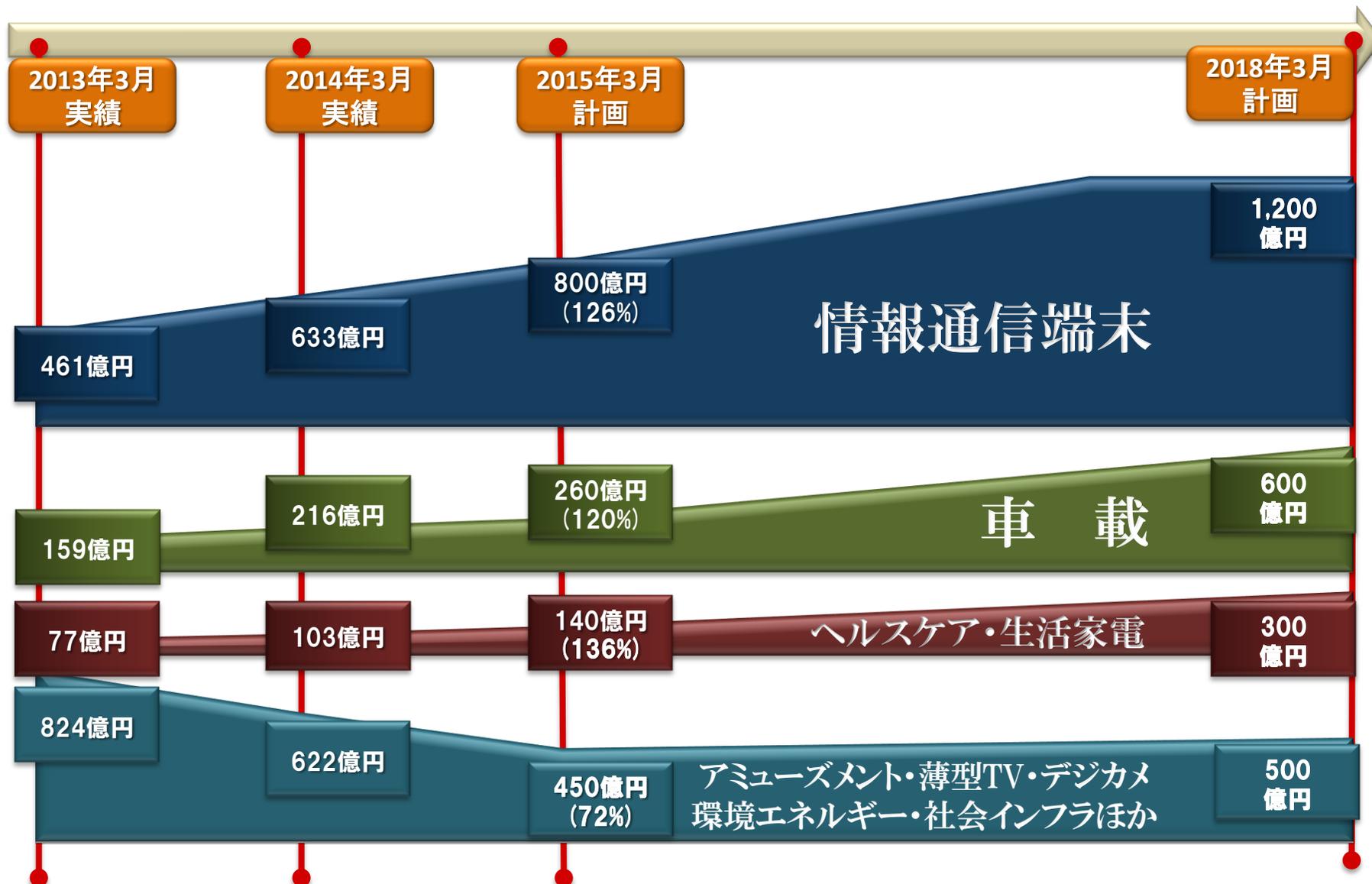
中期目標

売上高3,000億円を回復する

方針

事業拡大に注力する

1. 世界中で高い市場占有率を持つ製品群にリソースを集中します
2. 他社に先駆けて新技術開発と市場投入を行います
3. 車載・ヘルスケア市場にAV・通信市場で培った技術を応用し、
新たな事業領域を創出していきます



情報通信端末

2015年3月期計画800億円、中期目標1,200億円

1,200億円に向け事業強化継続

1. カメラモジュール用アクチュエータ市場動向
2. OIS事業 ～導入期から拡大期へ～

OIS: Optical Image Stabilizer

情報通信端末

2015年3月期計画800億円、中期目標1,200億円

1. カメラモジュール用アクチュエータ市場動向

進むOIS搭載比率 (当社2014年11月予測)

	2013年	2014年	2015年
アクチュエータ全体	10億個	12億個	14億個
内OIS比率			
2014年5月予想	3%	10%	20%
最新予想	3%	8%	16%

カメラモジュールの組立難易度が高いため、生産遅延が発生
 そのため、2014年以降の搭載見通し数量は増加が遅れると想定
 引き合いは以前よりも強くなっており、市場拡大を主導

情報通信端末

2. OIS事業 ～導入期から拡大期へ～

主要セットメーカーのデザインインがほぼ完了

<現状の課題>

カメラモジュールメーカーの量産技術力が市場拡大におけるリスク

<課題に向けた取り組み>

カメラモジュール製品の生産実績があるため、技術・生産面の支援を実施

生産能力を拡大し、事業の成長に注力

車載

2015年3月期計画260億円 中期目標600億円

車載ビジネスは想定通りに拡大

◆車載事業の拡大

1. アンテナ関連事業の取り組み
2. 新分野の取り組み

車載

◆車載事業の拡大

<今 期>

2015年3月期は、既存のアンテナ・チューナ関連製品を中心に計画通り売上高260億円を達成する見込み

<来 期 以 降>

2016年3月期以降は、アンテナ・チューナ関連製品の更なる拡大と、新たな事業領域であるインフォテインメント機器用ユニット・モジュール・艀装品で成長を加速

* 2018年3月期は、600億円を目指します。



車載

1. アンテナ関連事業の取り組み

年率25%の事業拡大 (2018年3月期まで)

- ① あらゆる車載アンテナを全て事業化
- ② あらゆる種類の送受信機の開発も推進
- ③ 複合製品を投入

(車載アンテナと送受信機：AM・FM・GPS・Glonass・LTE・衛星ラジオ)

電波の入口から出口まで一連の機器を最適な形で供給します。



車載

2. 新分野の取り組み

新たな製品群で周辺領域を拡大

- ① インフォテインメント機器用ユニット・モジュール
- ② 艀装品

民生分野のノウハウを活用し、部品からモジュール・セットまで事業化
新たな製品領域でもグローバルサポート体制を確立

ヘルスケア・生活家電

2015年3月期計画140億円、中期目標300億円

◆売上高40%増(前年比)の計画通りに推移

部品事業に加えて、OEM・ODM事業の受注が拡大

① ヘルスケア

電動歯ブラシ向けアクチュエータの生産を開始
現在、大手ヘルスケアメーカーの新製品として販売中

② 生活家電

国内大手メーカー各社にLED照明用電源を供給



LED照明用電源

半導体事業

◆半導体事業の収益改善

半導体事業は営業利益段階で収支均衡を実現

<事業の再拡大>

電池保護ICの市場シェア60%を更に高めるため、新戦略製品を投入

～電池の性能最大化・長寿命化～

- ① FGICの残量検出を高精度化。劣化判定性能を向上(電池容量 約10%UPに相当)
- ② OTP搭載電池保護ICで、超高精度化を実現(電池容量 約3%UPに相当)

— 上記技術により、電池使用時間が約13%UP —

新事業

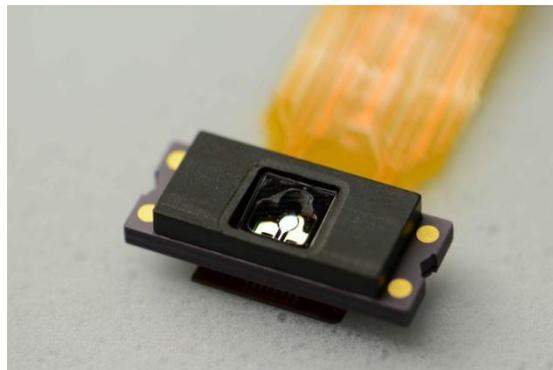
◆新製品・新技術の取り組み

ウェアラブル端末

当社が長年開発を進めてきたMEMSミラーの応用製品、

ウェアラブル情報端末(スマートグラス)用レーザー網膜走査型ディスプレイを

CEATEC JAPAN 2014で展示





IRに関する問い合わせ先

ミツミ電機株式会社

総務部 広報・IRグループ

TEL:042-310-5224

FAX:042-310-5168

Mail :prwmaster@mitsumi.co.jp